アムスルだより No.１０３ ２０１０年 5月１０日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp

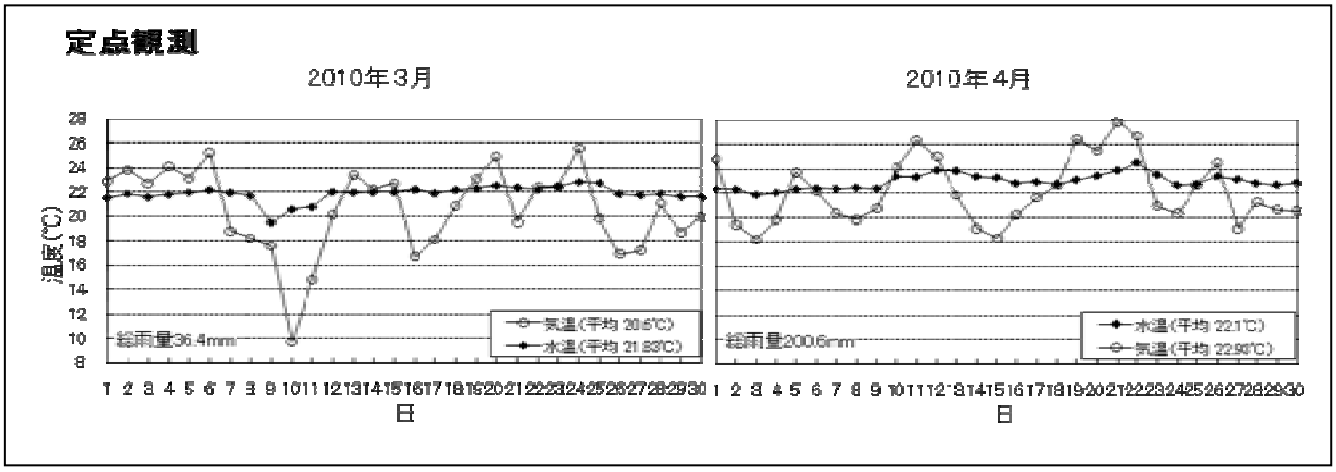
●赤ちゃんはどこに？
―大型イソギンチャクの産卵―

海水温も上がってきました。5 月に入って 23℃台になったと思っていたら、このところは 24℃をこえる日が続いています。今月末の満月前後の夜には、ミドリイシなどのサンゴの産卵が見られることでしょう。これまでにアムスルだよりでは、この季節に繁殖するサンゴ以外の刺胞動物たちをいくつか紹介しました。例えば、アナサンゴモドキがクラゲを出したり（クラゲの中に卵があります：No. 67)、スナギンチャク（No. 91）やソフトコーラルの仲間（No. 97）が産卵したりします。今回は、もう一つ、この時期に繁殖する刺胞動物の仲間を紹介します。

それはイソギンチャクの仲間です。慶良間にもたくさんの種類のイソギンチャクがすんでいますが、その中にクマノミ類といっしょに暮らしているイソギンチャクがいます（アムスルだより No. 51）。どれも大型のイソギンチャクで、なかには広がると直径 50cm 以上になる種もいます。およそ 10 種くらいいますが、さんご礁にすむ代表的なものは、タマイタダキイソギンチャク、シライトイソギンチャク、ハタゴイソギンチャクなどです。

それでは、これらのイソギンチャクはどうやってふえるのでしょうか。実は、まだふえ方のわかっていない種も多いのですが、例えばタマイタダキイソギンチャクなどは“分裂”することがわかっています。これは、簡単に言うと 1 つの個体が 2 つに分かれるふえ方で、具体的には、イソギンチャクの岩にくっついている部分（足盤といいます）の両端が、それぞれ逆の方向に移動して体が横長に伸びていき、もうこれ以上伸びないところまでいくと、体が真ん中から裂けていって、とうとう 2 個体になってしまうのです。言葉にすると、なにか乱暴な感じがしますが、こうして次々にふえていった結果、あたり一面同じ種類のイソギンチャクだらけになっている場所もあります。（冒頭の写真）

そして、これらのイソギンチャクは、もう一つ、“産卵”でもふえることができます。メスの個体から卵が、オスの個体から精子が放たれて、それが海中で受精して、次の世代がつくられるのです。ご存じのとおり、サンゴでは毎年見られる普通のふえ方ですが、実は、これまでに海の中でクマノミのすむイソギンチャ



クが産卵したところを観察した人は、あまり多くありません。オーストラリアなどでタマイタダキイソギンチャク（？）やシライトイソギンチャク、イボハタゴイソギンチャクが産卵したことがいくつか報告されているだけです。日本では、飼育水槽の中で産卵したとか放精したという報告や話は有りますが、海の中でそれを観察したという報告は、どうやらまだほとんどないようです。“ほとんど”と書いたのは、ほんの 1 例だけ、タマイタダキイソギンチャクの放精が確認されているからなのですが、それが実は阿嘉島のマジャノハマでのことなのです。お茶の水女子大学の先生が、2002 年のこの時期、5 月 29 日の午後 7 時ごろに観察されたそうで、写真も残っており、とても貴重な情報です。

分裂では 1 回に 1 個体しかふえませんが、産卵なら、場合によっては 1 度にたくさんの子孫が残せるかもしれません。この点からは産卵の方が得に思えますが、分裂でふえた個体は、すでに数～数十 cm もあるのに対して、産卵で生まれたものは、わずか数 mm で、クマノミの世話を受けられず、ほかの動物に食べられるなどして死んでしまう場合も多いかもしれません。この欠点のために、イソギンチャクは産卵よりも分裂でふえる方をより多く選んでいるとも考えられます。ともあれ、これまでの情報では、産卵することがとても少ないようなのですが、本当にそうなのか、もっと研究が必要でしょう。ただ、実際に、これらの赤ちゃんイソギンチャクを海の中で見たことは一度もありません。ずいぶん少ないにしても、どこかにはいるはずです。死んだサンゴのすき間か、岩のかげか。いつか見つけてみたいものだと思います。

冒頭で書いたように、もしかしたらこの時期にこれらのイソギンチャクの放卵・放精が見られるかもしれません。海に行かれる人は、注意してみてください。

● 阿嘉島の海より

晴天に恵まれたゴールデンウィークも終わり、にぎやかだった島も少し落ち着いたようです。沖縄はゴールデンウィーク直後に梅雨入りし、最近雨の日が多くなりました。

今年は 5 月 28 日が満月にあたります。5 月に入ってから海水温も 24℃を超える日が多くなっていて、このまま順調に水温が上がれば今年のサンゴの産卵はこの満月の数日後あたりではないかと予想しているのですが、梅雨の影響で水温が下がってしまうのではないかと少し心配です。ともあれ今年もこの満月に合わせて阿嘉小学校のサンゴの産卵観察会が予定されています。子供たちも観察会に向けてシュノーケリングの練習が始まるようです。